

情報連絡員報告・10月分

台風、地震、原油高の三重苦

～数値も総じて悪化傾向～

<東京都中央会>

10月の情報連絡員報告は、台風の影響による野菜の高値・入手難、新潟県中越地震による工場の被害、原油高による原材料の高騰の三重苦に満ちたものになった。台風の影響は、青果の販売業、漬物製造業、弁当製造業に深刻な影響を与えている。地震の影響は、被害地区に工場を持つ製造業に大きな打撃である。原油価格の高騰は、潤滑油製造業、塗料製造業などに先行きの見えない不安をもたらしている。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

<特記事項欄より>

弁当製造=台風の影響で野菜が高値になり、冷凍野菜も品薄で価格が上がった。材料が上がっても弁当の値段は上げられないので仕入で工夫している。

漬物製造=相次ぐ台風の発生で、大根、キュウリ、ナス、白菜等が大きな被害に遭い、原料不足や価格の大暴騰などにより業界は窮地に追い込まれている。これらの漬物は原料野菜のウェイトが高く、特に浅漬は厳しい状況である。

紳士服製造=今や数少ない地方工場が新潟県中越地震の被害を受けた。

和服製造=大手呉服店の倒産により打撃

を受けた業者がでた。以前にも老舗呉服店の統廃合で影響を受けた業者がいる。業者間では危ない店の噂が飛び交う。

潤滑油製造=原油価格が高値推移で潤滑油製品は原料油等のコスト高に苦しんでいる。最終ユーザー価格への転嫁が難しく企業吸収を余儀なくされている。

塗料製造=溶剤の値上がりのためシンナーメーカーはそれぞれ値上げに向けて動き始めている。中国塗料(株)は10%の値上げに踏み切ったが、関西ペイント(株)は前回早めに値上げ公表し、シェアを失ったこともあり今回は静観中。中小メーカーは原料値上げを吸収するため必死。

電線製造=10月の荷動きは6～7月頃の勢いはないが依然好調を維持している。デジタル家電や自動車向け電装品等が下支えしている。

羽田地区鉄工団地=新潟県中越地震によりメイン工場が被害を受け操業をストップした企業がある。

写真製版機材製造=ここ数年売上げが減少してきましたが、体質改善に努力した結果、業績は好転してきております。

築地青果仲卸=取扱高が前年比128%になりましたが、これは台風のため野菜の値が上がったものです。業況がよくなったのではなく、数量は減少です。

玩具卸=相変わらず消費低迷が続き、又、起死回生のヒット商品も未だ現れず、いよいよ最需要期のクリスマス・正月

商戦に突入する。不安は否めない。

廃棄物処理事業=新潟県知事の要請により、新潟県長岡市のゴミ回収支援のため、パッカー車15台の出動を行った。

<要望事項欄より>

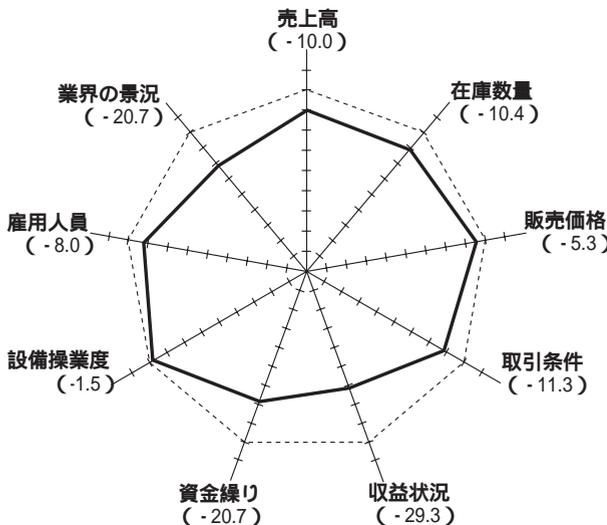
*下請加工業は発注企業の動向に経営が大きく左右される。企業が海外展開する場合、下請加工業への影響を考慮するよう指導されたい。受注減で事業廃止する事業所への配慮を合わせてお願いする。

[メッキ業]

*未だに、災害時に避難場所となる体育館等において、破損したときに鋭利な凶器と化するフロートガラスを窓ガラスに使用しているところが多く見られる。二次災害となる前に対応を望む。

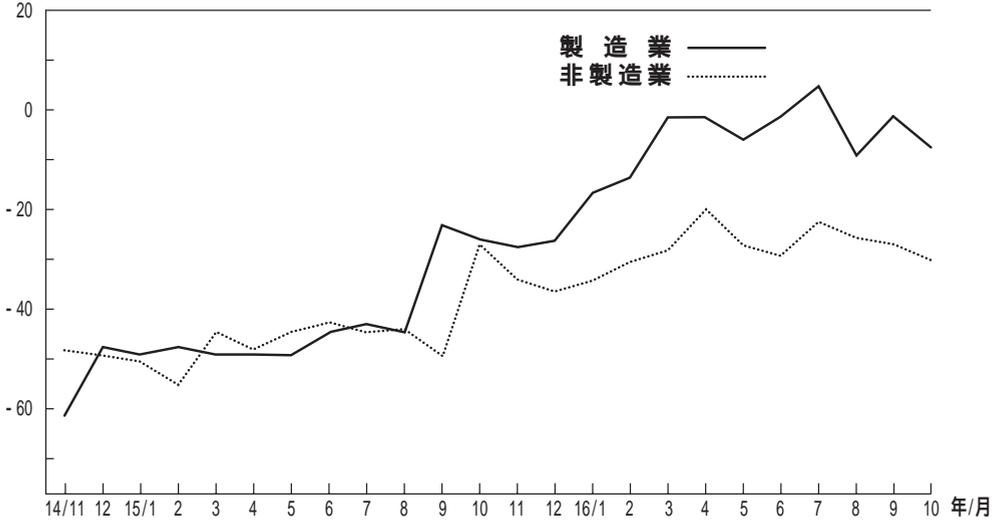
[板硝子販売]

10月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)

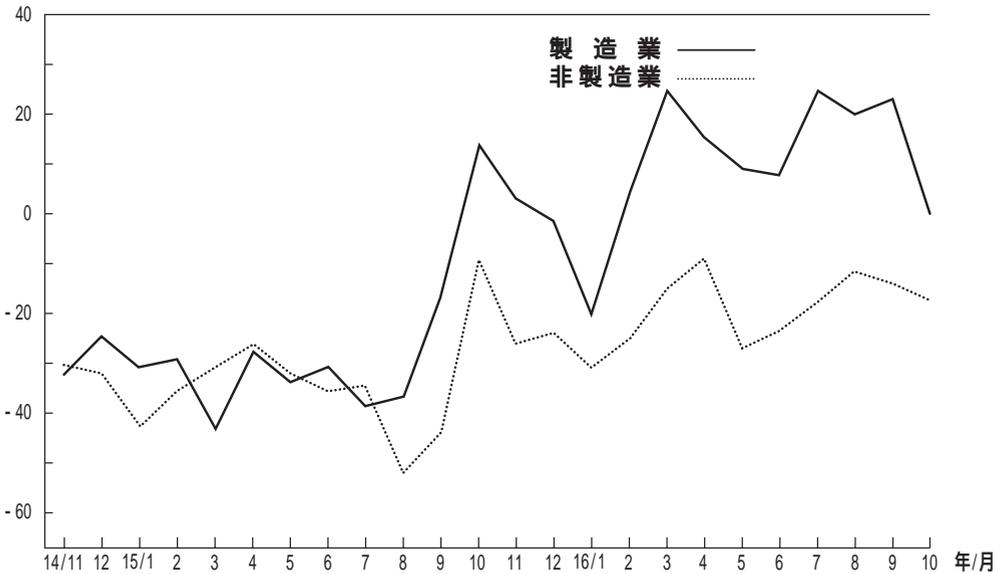


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化 (H14.11 ~ H16.10)
(前年同月比)



売上高DIの変化 (H14.11 ~ H16.10)
(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。